鹿児島大学学友会管弦楽団　第110回記念定期演奏会

PROGRAM

シューベルト
劇付随曲「ロザムンデ」序曲

シューマン
ピアノ協奏曲　イ短調　Op.54
1楽章　Allegro affettuoso
2楽章　Andantino grazioso
3楽章　Allegro vivace

―――――――――――――　休憩　―――――――――――――

シベリウス
交響曲第2番　ニ長調　Op.43
1楽章　Allegretto
2楽章　Tempo andante, ma rubato – Andante sostenuto
3楽章　Vivacissimo – Trio. Lento e suave – attacca
4楽章　Finale. Allegro moderato – Moderato assai – Molto largamente

指揮/大河内　雅彦
ピアノ独奏/萩原　麻理子

鹿児島大学学友会管弦楽団

1952年に結成された鹿児島大学の学生、教員を中心とするメンバーで構成されたアマ チュア・オーケストラ。年間の活動は、年に2回夏冬に開催する定期演奏会、夏期休暇を 利用した県内各地での演奏旅行、また学内外の式典演奏なども行っている。

楽団の育成にあたっては、学外を始め、多くのベテラン・若手指揮者に定期的に客員 をお願いし、また弦楽器トレーナーとして石井宏明氏、木管楽器トレーナーとして久保由香理氏、金管・打楽器トレーナーとして松田俊太郎氏を迎えて、音楽的、技術的向上を 図っている。

現在、団員約60人。

ご挨拶

顧問
鹿児島大学大学院
医歯学総合研究科教授
岸田　昭世

お忙しい中、110回定期演奏会定期演奏会にご来場を賜りますこと大変ありがとうございます。コロナ禍による演奏会の開催中止はありましたが、おかげさまで鹿児島大学学友会管弦楽団は1952年(昭和27年)から続けてきた定期演奏会を今年も開催できる運びとなりました。今回の演奏会でも以前からご指導いただいている大河内雅彦先生をお招きし、まずはシューベルトのロザムンデ序曲を演奏したします。2曲目は若手の萩原麻里子氏をお迎えしてシューマン/ピアノ協奏曲　イ短調です。メインプログラムではシベリウス/交響曲第2番 ニ長調 Op.43を演奏いたします。

シベリウスはフィンランドの国民的な作曲家ですが、幼少期からバイオリンに親しみ、兄弟と室内楽演奏の機会を通じ、音楽の素養を身につけたといわれています。本日演奏します交響曲第2番　ニ長調　作品43は、1901年に完成した交響曲で、初演は1902年にシベリウス自身が指揮してヘルシンキフィルハーモニック協会により行われました。短いモチーフを繰り返しながら徐々に変化させ壮大なスケールに発展させる形をとっており、シベリウスの7曲の交響曲の中でも、人気が高く演奏される機会がかなり多い作品です。昨今の個人の自由を優先する気風のなかで、大人数の集団行動、つまり、学生オーケストラという課外活動を維持していくのは大変ですが、団員たちが懸命に積み上げてきた半年の成果を聴衆の皆様にお届けできれば幸いに存じます。私共「鹿大オケ」は今後も団員全員で作り上げるハーモニーを絶やさぬよう精進を続けてまいりますので今後もどうか応援していただけますようお願い申し上げます。最後に、本演奏会の開催にあたり指揮の大河内先生、独奏の萩原麻里子氏、そして、トレーナーの先生方や、練習場所を提供してくださる鹿児島大学、賛助出演のOB・OGの皆様、ご寄附をいただきました方々など全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

主将
黒木　悠里
（工学部　先進工学科
化学生命工学プログラム）

本日はお忙しい中、鹿児島大学学友会管弦楽団の定期演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

本楽団は出身や学部、学科の異なる約60名の団員によって構成されています。またその歴史も長く、1954年の第1回定期演奏会を皮切りに、今回の定期演奏会で110回を数えることとなりました。今、こうして無事に定期演奏会を迎えることができるのも、ひとえにOB・OGの皆様、また本楽団の演奏会に足を運んでくださるお客様のおかげでありますことを、団員一同心より御礼申し上げます。

今回の演奏会では、指揮者に大河内雅彦先生をお迎えして、シューベルト作曲　劇付随音楽「ロザムンデ」序曲（オペラ「魔法の竪琴」序曲）、シューマン作曲　ピアノ協奏曲イ短調Op.54、そしてメインにシベリウス作曲　交響曲第2番ニ長調Op.43を演奏させていただきます。

シューベルト作曲　劇付随音楽「ロザムンデ」序曲は、全楽器が一緒に強く奏する荘重な和音から始まり、木管楽器から弦楽器へ引き継がれる甘美な旋律を抜けると、軽快なメロディが広がります。多彩な表現が盛り込まれた序曲で、ワクワク感に包まれながら演奏会の幕開けを華やかに飾ります。 2曲目のシューマン作曲 ピアノ協奏曲においては、高校生なから輝かしい経歴をお持ちの萩原麻理子氏をお迎えいたします。萩原氏の素晴らしいピアノの旋律とオーケストラの共演をお楽しみください。

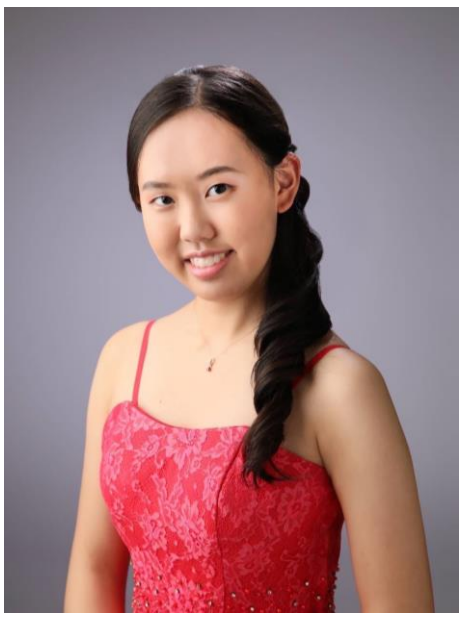
最後にお送りするのがシベリウス作曲　交響曲第2番です。この作品は交響詩「フィンランディア」と並んでシベリウス作品の中でも大変有名な曲となっております。交響曲第2番はシベリウスの祖国フィンランドがロシアの圧政下の時代において書き上げた曲です。この曲は常々愛国的解釈をされてきています。北欧の自然を思わせるような牧歌的な主題、暗から明へと変化する構成はフィンランドの深い霧に包まれた湖の情景を表現しています。それぞれの曲を作り上げたいという意欲の元、またこれらの音楽の素晴らしさを、本日皆様と共有できるよう団員一同努力してまいりました。本日はそのような本楽団の渾身の演奏をどうぞお聴き下さい。

最後になりましたが、指揮者の大河内雅彦先生、ピアノ独奏の萩原麻理子氏、ならびに弦楽器トレーナーの石井宏明先生、金管打楽器トレーナーの松田俊太郎先生、木管楽器トレーナーの久保由香理先生をはじめ、今回の演奏会を開催するにあたりご協力いただいた関係者の皆様方にこの場を借りて深く御礼申し上げます。本日はどうぞ最後までお楽しみください。

プロフィール

指揮者
大河内　雅彦

1971年生まれ。愛知県立岡崎高校を経て、東京芸術大学器楽科卒業。これまでに指揮をハンス・グラーフ、カール・エステルライヒャー、湯浅勇治、小松一彦、広上淳一の各氏に師事。
2002年4月より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の指揮研究員として飯守泰次郎・矢崎彦太郎両氏のもとで研鑽を積む。同団副指揮者を経て、2007年6月より2010年9月まで、東京シティ・フィルのアソシエイト・コンダクターを務める。この間に同団の 100 回以上の公演を指揮。
またこれまでに、広島交響楽団、日本センチュリー交響楽団(旧大阪センチュリー交響楽団)、Osaka Shion Wind Orchestra(旧大阪市音楽団)、シエナ・ウィンドオーケストラ、仙台フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、東京都交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団(旧大阪シンフォニカー交響楽団)、中部フィルハーモニー交響楽団、東京佼成ウィンドオーケストラを指揮。
オペラの分野では、日生劇場開場50周年記念公演「メデア」および「リア」に、音楽スタッフとして参加。
2014年12月には、マケドニアの首都スコピエと第二の都市ビトラにて、マケドニア国立オペラ・バレエ劇場の「夕鶴」公演(協力:東京オペラ)を指揮する。
この他に「フィガロの結婚」、「魔笛」、「椿姫」(抜粋)、「奥様女中」を指揮。
第49回ブザンソン国際指揮者コンクール セミ・ファイナリスト。
2006年度より上野学園大学音楽文化学部非常勤講師(指揮研究科・オーケストラ)を務める。
これまでに慶應ワグネル・ソサイェティー・オーケストラやアンサンブル・コンソルテ、北九州伯林的管弦楽団をはじめ、多くのアマチュアオーケストラとも関わってきている。
本学団とは、2007年以降21回目の共演となる。



ピアノ独奏
萩原　麻理子

3才よりヤマハ音楽教室に入会。ジュニア専門コース、ヤマハピアノマスタークラスピアノ演奏研究コースを経て、現在ヤマハマスタークラスピアノ特別コースに在籍中。

第4回ヤマハジュニアピアノコンクールC部門第一位。
第17回エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール(ドイツ)カテゴリーAヤングタレント特別賞受賞。
第75回全日本学生音楽コンクール東京大会入選。
第23回ショパン国際ピアノコンクールin ASIA アジア大会中学生部門金賞。

現在、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校1年在学中。ピアノを東誠三、浦壁信二、北島公彦、及川良子、ラルフ・ナットケンパーの各氏に師事。室内楽を漆原啓子氏に師事。

プロフィール

弦楽器トレーナー
石井　宏明

武蔵野音楽大学卒業。在学時に東京交響楽団に入団。
アフィニスセミナーに参加しシカゴ交響楽団デヴィッド・テーラー氏の指導を受ける。
草津音楽祭、霧島国際音楽祭、ジャパンヴィルトゥーゾシンフォニーオーケストラ等に出演。
ヨーロッパ、アメリカ、東南アジアなど国内外で演奏活動後、10年活動した東京交響楽団を退団、帰鹿し、九州各地にてヴァイオリン、ヴィオラで活動を行う。
MBCユースオーケストラ弦楽器チーフ指導者。
KTS室内オーケストラ、鹿児島大学学友会管弦楽団の弦楽器トレーナー。
れいめい中学・高等学校管弦楽部指揮者。加音オーケストラ音楽監督・指揮者。姶良バイオリン教室主宰。

木管楽器トレーナー
久保　由香理

鹿児島大学教育学部音楽科卒業、ドイツ国立アウグスブルク大学、レオポルド・モーツァルト・ツェントルム修士課程を首席で卒業。これまでにファゴットをカールスーテン・ナーゲル、オレクセイ・トゥカチュク、鈴木一志、坪井隆明、故・田中雅仁、池田博幸・泰子夫妻に師事。室内楽をリンダー・シュパッヒャー、クリスティーナ・ファルディの各氏の講習会にて受講。在独中、アウグスブルク歌劇場やシンフォニアザルツブルク等、多数オーケストラに出演。2009年カール・オルフ祭に出演。2007～09年、コレギウムムジクム・イン・ポンメルフェルデンに参加。
第19回鹿児島県新人演奏会に出演。
第93回鹿児島大学学友会管弦楽団定期演奏会にてソリストとして同管弦楽団と共演。
第41回鹿児島市春の新人賞受賞。
2010年に帰国後、鹿児島を中心に室内楽やオーケストラ、吹奏楽で活動しながら後進の育成にあたっている。
現在、鹿児島国際大学国際文化学部音楽学科非常勤講師。みやまコンセール協力演奏家。日置ジュニアオーケストラ指導員。ファゴットLab.主宰。トリオリグナー、カンマームジカンテン所属。

金管・打楽器トレーナー
松田　俊太郎

武蔵野音楽大学卒業。ホルンを三好隆三、故・田中正大、山本真の各氏に師事。
大学在学中より都内のオーケストラに客員として参加を始め、卒業後はスタジオでのレコーディングの仕事やミュージカルでの演奏などにも仕事の幅を増やし、クラシック音楽のみならず様々なジャンルで活躍している。 また出身地である鹿児島を起点に九州各地での指導やコンサートの企画にも意欲を見せている。
トリオSOFFRITTO、トリオ・イグアス、スパークルホルンカルテット主宰。鹿児島国際大学非常勤講師。
1995年 スティーヴィー・ワンダー JAPAN ツアー参加。
1996年 ウィーンフィル JAPAN ツアー参加。
1998年 小沢征爾指揮、新日本フィルの長野オリンピック全参加国、地域の国家レコーディングに参加。
2000年 チェジュ国際金管打楽器コンクール審査員。
2002年 東京シティ・フィル「ジークフリート」に独奏ホルンとして参加。
2003年 宇都宮大学 非常勤講師(～2007年)。
2013年 音楽朗読劇「山男と子ども」プロデュース。
2015年 トリオ SOFFRITTO を編成し、コンサート・ライブツアーを開始。
2015年 南日本放送のラジオ番組「ラジオ朗読劇・椋鳩十の世界」にテーマ曲「風奔る」を SOFFRITTO として提供。
2016年 麻生フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会にリヒャルト・シュトラウスのホルン協奏曲第1番のソリストとして出演。
2017年 トリオ「イグアス」を結成して1st コンサートを開催。

曲目紹介

フランツ・シューベルト (1797-1828)

1797年1月31日、オーストリアのウィーン郊外で生まれる。
10歳頃から音楽全般の基礎教育を受け、13歳の頃から作曲を始める。生涯をボヘミアン的な生活で送りつつも、周囲には常に良き理解者かつ支援者である友人たちがいた。彼らのためか、生涯に30曲以上の連弾作品を書くなど、ピアノ曲が多く残されている。また、1811年7月にオペラを鑑賞し、半年後初めてオペラ創作に取り組んだ。1812年初秋、家族編成の弦楽四重奏団が結成された。この頃初期の弦楽四重奏曲群をいくつも作曲している。また、生涯に約600曲歌曲を生み出しており、その創作は最晩年まで続けられた。そして現在ほとんど上演の機会に恵まれない劇音楽でも信じられないような創造力を示している。多彩な人物だが、ピアノ、ヴァイオリン、ビオラの才能は努力によって身に付けた。短期間の人生であった割に、生涯に残した作品群は数多く存在している。

劇付随音楽「ロザムンデ」序曲

正式には、4幕のロマン劇《キプロスの女王、ロザムンデ》への音楽と呼ばれる。
冒頭、荘重な和音の柱に導かれて現れる歌謡旋律が美しい。主部は、展開部を欠くソナタ形式と呼ばれるタイプの形式になっている。呈示部では軽快な第1主題緩やかな歌謡性を持つト長調の第2主題、リズミカルな第3主題という主題が3つ現れ、各々が大きな部分を形成し短い経過部を挟み、型通りに全体が再現されるようになっている。最後は、8分の6拍子の独立したコーダが付いている。各主題は本来の《魔法の堅琴》の各ナンバーより主な主題を選び出したもの。

ロベルト・アレクサンダー・シューマン(1810-1856)

19世紀における音楽文化を先進した作曲家。1810年、ドイツのツヴィッカウで生まれる。文学に触れる機会が多く、彼の文才が花開く。ピアニストを目指しヴィークに師事する。後にヴィークの娘クララと恋愛、そして結婚するがそれは彼の創作活動に多大な影響を及ぼし、結婚の翌年に交響曲第1番を完成させた。その初演は著しく成功する。しかし、ピアニストの妻クララの随伴者として大半扱われ、心身を消耗した。1853年、20歳のブラームスと会い、その若き才能に感銘を受け、彼を絶賛する評論を書き上げる。そうした刺激を受けつつ、悪化していた体調と精神が回復することなく、1856年に46歳の生涯を閉じた。
室内楽を手がける、文才を活かして音楽評論の雑誌を立ち上げる、指揮を務めるなど、彼の活動は幅広い。ベートーヴェンやシューベルトの楽曲に感銘を受け、シューマンの制作に影響を与えている。また、メンデルスゾーンや先述したブラームスなど、多数の音楽家と交流している。

ピアノ協奏曲　イ短調Op.54

1841年にシューマンが《ピアノと管弦楽のための幻想曲》　イ短調を作曲。その幻想曲を1楽章として新たに2つの楽章を書き、完成した作品が《ピアノ協奏曲》。元来幻想曲から出発したものであるため協奏曲の伝統からかなり離れている。

第1楽章　Allegro affettuoso

強烈で精力的な短い序奏が管弦楽の和音の後にピアノでリズミックに奏しだされ、続いて木管が柔和にロマン的な第1主題を出す。これをピアノが繰り返してから、ピアノの装飾の中で管弦楽が重要な句を奏する。それからピアノが第1主題を出し、クラリネットがそれを受ける。オーボエその他の木管と美しく対話しながら扱われる。力強く総奏で主題の動機を示して、曲は展開部に入る。速度を落として変イ長

曲目紹介

調でピアノとクラリネットを美しく応答させながら、主題を変形して示す。突然、曲の冒頭の序奏の進行形がピアノに現れ、ピアノと管弦楽が息詰まるようなやりとりをする。ピアノが下降したところで転調を重ねて優しい雰囲気を醸し出す。そうして木管が第1主題をはっきりとイ短調で出し、曲は再現部に入る。以下呈示部のように進み、第2主題部直前のピアノの独奏でイ長調に変わる。それから第2主題部の再現の後、その頂点でカデンツァに入る。技巧的なカデンツァはトリルで管弦楽を引き入れ結尾へ進む。この拍子で主題を扱い最後にストレッタで畳み込み、主題を拡大し、力強く華々しくこの楽章を結ぶ。

第2楽章　Intermezzo. Andantino grazioso

極めて甘い感情に満ち、ロマン的で穏やかな協奏風の牧歌とでもいえよう。弦とピアノの美しい応答で主題が柔らかく繰り広げられてゆく。これが第1楽章の第1主題と密接な関係を持っている。中間部はハ長調で突然チェロに表情豊かでロマン的な旋律を出して始まる。シューマンらしいピアノの動きを他の楽器が受けてからヘ長調に戻り、曲は第1部の再現に相当する第3部に入る。そしてそのまま次の第3楽章へと休みなく入る。

第3楽章　Finale. Allegro vivace

前の楽章を受けてピアノが第1楽章の第1主題の楽想を輝かしく奏し、弦がそれにきらめくような音階的な上昇で加わる。こうして第3楽章の主題を暗示する短い序奏の後に、ピアノが第1楽章と関連ある第1主題を明るく堂々と奏しだす。これをピアノが確保した後に、ピアノを主体とした自由な経過部が来る。それから弦によって、休止符をたくみに利用したホ長調の第2主題が登場する。この主題を管弦楽が展開風に扱い、ピアノが輝かしく鋭く対立して小結尾となり、呈示部が終わる。展開部は管弦楽による第1主題で始まる。すぐフガートへ移り、オーボエが新しい旋律を出し、これを各楽器が転調を導きながら扱う。そして木管に第1主題が現れる。これに導かれ、力強く管弦楽に第1主題がニ長調で登場する。ここで再現部が始まる。呈示部のように進み、経過部の後に第2主題を弦が登場させる。管弦楽が第1主題を出し、曲は結尾に入る。結尾は長大で展開部と同じように始まる。しかしフガートはなく、その代わりピアノによる新しい旋律を出す。その他展開部の旋律も用いて圧倒的なクライマックスを築いていき、曲は華麗に終末を告げる。

ジャン・シベリウス (1865-1957)

1865年12月8日、フィンランドの小都市ハメーンリンナで生まれた。

14歳でヴァイオリンを買い与えられ、室内楽に熱中する。ついで独学で室内楽曲を次々に作るようになった。1885年にヘルシンキ大学と音楽院に進学し、法律、ヴァイオリンと作曲法を学ぶ。その後赴いたベルリン、ウィーンでの留学では有名教師に就いたほか、水準の高いコンサートを聞き刺激を受けた。特にブルックナーやワーグナーの作品に関心を抱く。そしてアイノと結婚、カレリア地方の歴史に因む劇の音楽を作曲し、やがてそれが編出された《カレリア》序曲と組曲となる。

1899年頃激化した愛国運動の最中完成した作品が細かい修正をかけられ、《フィンランディア》として全世界に普及した。その後シベリウスの親友兼パトロンであるカルペラン男爵の計らいでイタリアに旅行。ラパッロという保養地に落ち着き、1901年に新しい交響曲の構想を開始させ、秋頃に完成。この際完成した作品が《交響曲第2番》である。1914年、自身の祝賀コンサートで《交響曲第5番》が披露された。そして一時の中断はあったものの、《第5番》とほぼ同じ時期に着想されていた2つの交響曲が完成。「カレワラ」 に因む交響詩《タピオラ》を1925年に創作、交響曲と交響詩の両系列上の頂点に達した。その後際立った作品はなく、1957年9月20日、アイノラにて生涯を閉じる。

ドヴォルザークやマーラーなど数多くの作曲家たちと親交があり、交響曲やヴァイオリン協奏曲、劇音楽、歌曲、ピアノ曲などその作品性は多岐にわたる。フィンランドにおける最も偉大な作曲家として広く認められた作曲家でもある。

曲目紹介

交響曲第2番　ニ長調 Op.43

南国的な保有地、イタリアのラパッロでの滞在中に着想を得て、帰国後1901年に完成。シベリウスの交響曲のうち、最もポピュラーな作品。民族的要素がありつつ、ドン・ファン伝説に影響され、一部象徴するテーマが見られるなど、自由な形の作曲がなされている。

第1楽章　Allegretto

ソナタ形式で書かれている。冒頭に弦の陣容に序のモチーフが奏でられ、これが背景的伴奏役となり、木管楽器に第1主題が現れる。この軽快な主題の後半はホルンによるメロディアスな応答によって答えられる。続いて曲は自由幻想風に異なる音型や旋律を登場させるが、両ヴァイオリンにたっぷりと情感の溢れる旋律が奏でられた後、弦のピッチカートで盛り上がった頂点に木管楽器群による第2主題が聞かれるが、このとき背後で弦は序奏の動機を奏でている。この延長の中に木管による小動機が数回明滅、そのモチーフが次の展開部でおおいに活用される。やがて曲は冒頭の動機を再現させて静まると、オーボエ、ファゴットの順に第2主題が扱われ、他の木管に小動機から導かれた音型が受け持たれて曲は息の長い展開に入る。その後冒頭の動機も参加しながら高揚を重ね、金管群を主体とした頂点に達する。一旦の全休止に続いてホルンの先導により、木管が第1主題を再現させると、弦はしばらくして小動機の変形で応える。第2主題の再現はまずトランペット、ついで木管から弦を巻き込み、その後冒頭の動機を奏でながら遠ざかり、穏やかな和音で終わる。

第2楽章　tempo andante, ma rubato - Andante sostenuto

ティンパニの連打に促されてコントラバス、ついでチェロにかけてピッチカート音型が続けられるが、やがてファゴットによる第1主題が吹かれ、その末尾にホルンがしめくくるようなモチーフを添える。続いて副主題を従えながら曲は高揚し、金管群による決然たる頂点に達する。その峻厳が静まった後急転して慰めに満ちた第2主題がオーケストラいっぱいに広がるものの、やがて総休止の後第1主題の再現、今度はトランペットとフルートでの応答になる。この部分が高揚し金管主体の峻厳な頂点に達するが、続く第2主題はビオラとクラリネットに寂しく奏でられる。しかしすぐに金管の荒々しいモチーフが襲い、曲は幻想的に満ち溢れて広がる。やがて木管群による不気味なトリルが奏でられ、最後に金管も厳しい響き参加し、2つのピッチカートで特色に満ちた、劇的、幻想的な厳しい楽章を閉じる。

第3楽章　Vivacissimo - Lento e suave - attacca

スケルツォとトリオであるが、トリオは2度置かれ、後者は休みなくフィナーレになだれこむ。まず弦によるスケルツォの開始、息の短い動機風の主題がやがて管楽器による副主題を乗せて曲は慌しい進行を続け、一旦盛り上がった後6回の総休止を経てトリオに移行する。オーボエがしみじみとした牧歌を奏でると、やがてクラリネットやフルートが合いの手を入れる。再び荒々しくスケルツォが再帰し、それが盛り上がったあげく、急に穏やかなホルンの和音の後オーボエのトリオが再現する。その応答に独奏チェロに始まる弦楽器が加わり、じわじわと盛り上げてオーケストラいっぱいに充満させ、その頂点でフィナーレを開始させる。

第4楽章　Finale. Allegro moderato - Moderato assai - Molto Largamente

フィナーレは弦の奏でる力強いモチーフ様の第1主題と、トランペットによる勇壮な応答によって、勝利と確信のフィナーレへと開かれた印象を想わせる。続いて弦に経過的にたっぷりした旋律が現われ、第1主題をオーケストラいっぱいに扱って盛り上げたて減衰し、ビオラとチェロのうごめく音型をバックとして木管による息の長い第2主題群に至る。音楽は展開部に進み、ここで第1主題のモチーフが形を変えて執拗に展開される。そして第2主題の音型や副主題のモチーフも織り込まれて大きな高揚を行い、第1主題、そしてその応答の副主題を高らかに再現させる。第2主題群の再現は呈示部よりも遥かに長くずっと大きく広がる。クライマックスで一旦下降すると見せ、すぐに終末のシンフォニックな頂点に達し、オーボエ、トランペット、トロンボーンに主奏される堂々たる終結の賛歌をもって、聴く人々の感興を最大に高める。

過去の演奏曲

第109回　2023年6月24日(土)　会場:宝山ホール
指揮:鈴木　衛　　ホルン独奏:幸喜　いずみ
ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲
モーツァルト／ホルン協奏曲第4番　変ホ調
シューマン／交響曲第4番　ニ短調

第108回　2023年1月29日(日)　会場:川商ホール(鹿児島市民文化ホール)第一ホール
指揮:大河内　雅彦　　チェロ独奏:原田　哲男
モーツァルト／歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
サン＝サーンス／チェロ協奏曲第1番　イ短調
ドヴォルザーク／交響曲第7番　ニ短調

第107回　2022年7月10日(日)　会場:宝山ホール
指揮:鈴木　衛　　クラリネット独奏:西村　薫
グリンカ／歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
ウェーバー／クラリネット協奏曲第2番　変ホ長調
ベートーヴェン／交響曲第5番　ハ短調「運命」

70周年記念　2022年1月30日(日)　会場:宝山ホール
指揮:大河内　雅彦　　トランペット独奏:中村　諒
ブラームス／ハンガリー舞曲第1番
フンメル／トランペット協奏曲　変ホ長調
ブルックナー／交響曲第4番　変ホ長調「ロマンティック」

第105回　2021年7月24日(土)　会場:宝山ホール
指揮:鈴木　衛
ベートーヴェン／劇音楽「エグモント」序曲
ブラームス／交響曲第1番　ハ長調

第104回　2021年1月24日(日)　会場:宝山ホール
指揮:大河内　雅彦　　ヴァイオリン独奏:戸澤　采紀
シベリウス／交響詩「フィンランディア」
チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲　ニ長調
ドヴォルザーク／交響曲第9番　ホ長調

第102回　2020年1月26日(日)　会場:宝山ホール
指揮:大河内　雅彦　　ピアノ独奏:中野明香
ベートーヴェン／「コリオラン」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番　ハ短調
ブラームス／交響曲第4番　ホ短調

第101回　2019年7月13日(土)　会場:宝山ホール
指揮:鈴木　衛　　オーボエ独奏:大隈　淳幾
ロッシーニ／歌劇「セビリアの理髪師」序曲
モーツァルト／オーボエ協奏曲　ハ長調
ドヴォルザーク／交響曲第8番　ト短調

役員紹介

主将
黒木　悠里
（工学部　先進工学科
化学生命工学プログラム）

頼れる我らが鹿大オケの主将、チャーリー先輩こと黒木悠里先輩を紹介しよう。まずは何といってもその可愛さである。彼女は身長がとても低い。そして、それを隠そうと常に厚底の靴を履いているのである。はいかわいい。顔もとても小さい。シンプルにうらやましい。筆者は彼女の後輩にあたるが、決していじっているわけではない。本当にかわいいのだ。思わずいじってしまうほどに。そして、チャーリー先輩のすごいところと言えば、やはり局員へのサポートだろう。的確な意見と確固たる意志を持って鹿大オケの舵取りを行ってくれるのだ。さすがである。いつもありがとうございます。また、チャーリー先輩の紹介に欠かせないのが、ホルンである。大学に入ってから始めたホルンは、ホルン歴3年と思わせないほど悠々と、そして力強く鹿大オケのサウンドを彩っている。最近は楽器を買ったとか。それを両親に内緒にしているとか…。果たしてここで言って良かったのかは分からないが、彼女のピカピカの楽器にもぜひ注目してほしい。居眠り厳禁！舞台左手のホルンの音色をお楽しみください。
(筆：下入佐萌衣)

学生指揮
西條　晴登
（理学部　理学科
数理情報科学プログラム）

2002 年 8 月 30 日、辺境の地、高岡に生を受け、のちの学生指揮となるダヴィンチこと西條晴登は誕生した。

彼を構成するものはただ2つ、ラーメンとチェロである。彼はコンタクトを買うよりラーメンに行くことを優先するほどラーメンが好きだ。おすすめのラーメン屋があればお手持ちのアンケートに店名を書いてほしい。きっと彼は行くことだろう。合奏中の彼は、まず今日あった出来事を愉快に話す。声を上げて笑うのは団員のほんの数人、安堵の表情が見て取れる。しかし、ひとたび指揮棒を持てば的確に合図を出し、入るところでは必ず目が合う。先輩後輩関係なく、いつも笑顔で気さくに話してくれる彼だが、一部女子からは、本当の笑顔ではない、目は死んでいる、などなど酷評を受けているが、そんなことはない、はずだ。

そんな彼のチェロ愛は錦江湾より深い。講義よりチェロ、再試よりチェロ、留年しそうな時もチェロ、ご飯よりチェロ、チェロ、チェロ、チェロ…。本日はステージ右手にいる彼の、チェロ愛溢れる演奏に注目していただきたい。
(筆：蓮井瑠之)

コンサートミストレス
辛島　果林
（工学部　先進工学科
海洋土木工学プログラム）

ユーモア満載の我らがコンサートミストレス、辛島果林先輩を紹介します！

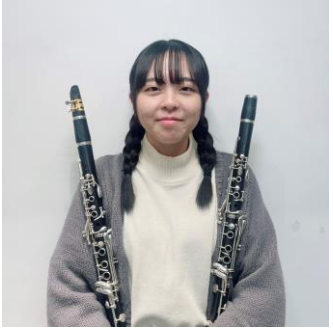
いつも切れ味抜群のトークをかましてくださるかりん先輩。常にネタ帳を持ち歩き、日常生活の中で面白い要素を見つけることに余念がないそうです。どんな些細なことでも笑いに変える先輩の頭の中が見てみたい…。たまに聞くことのできる練習終わりの挨拶が私はとても大好きです!!

先日のコンサートミストレス承認部会では、アクセントの効いたアドバイスをしてくださり、とても安心感がありました。羨ましいほどのトーク力でそこに痺れる憧れるぅ！

キレキレなのはトークだけでなく、バイオリンの演奏もです。自主練を欠かさず、スコアにも書き込みをたくさんし、パワフルな音色を奏でます。コンサートミストレスとしてオーケストラ全体を音楽で引っ張っていくその姿は、まるで武将のよう！（いや、さすがに武将は勇ましすぎるか…？）

何はともあれ、夏の定期演奏会よりもさらにパワーアップした姿が見られるでしょう！大曲、シベリウスの交響曲第2番で輝くコンサートミストレスをどうぞご覧ください
(筆：岩下ちひろ)

役員紹介



事務局長
田中　穂乃香
（理学部　理学科
数理情報科学プログラム）

恋も仕事も勉強も全て両立しているスーパー女子、我らが事務局長のほのちゃんこと、田中穂乃香先輩を紹介します!事務局では動物園のように賑やかな局員をまとめ上げ、大学では理学部で数学を学ぶというリケジョなほのちゃん。今年1年、私たち局員にどれだけ苦労させられたことでしょう。(コンパやるかやらないか論争で3回も話し合ったことでさえ今では良い思い出です。)

それでも仕事のLINEは驚くべきスピードで返信し、いつも局員を気にかけてくださる穂乃香先輩はまるで女神様です。筆者だったら絶対泣いてます。先輩の背中を見ながら事務局長としての覚悟を固めていきたい所存です。そして、そんなほのちゃんは福岡出身ということで、「惚れてまうやろ!」な博多弁とクラリネットを操ります。舞台中央から目が離せません!!

(筆:朝長寿奈子)

技術局長
荒武　恋実
（法文学部　人文学科
多元地域文化コース）

我らが技術局長、にょっき先輩をご紹介するにょき。にょっき先輩と言えば団員がまず思いつくのは、その日本語の美しさだろう。敬語の魔術師と言わんばかりに、全ての言葉を丁寧に訂正してくださるにょき。さすが文系。また、ディズニーをこよなく愛し、カラオケではディズニーの曲を歌ってくださるにょき。(あの時の曲は恐らくディズニー、もしかするとジブリ、、、？筆者の知識不足で大変申し訳ない)また、飲みの場では可愛らしく飲酒し、目が合うと手を振ってくださるお茶目さんな一面も持ち合わせるにょき。

また、技術局長の引継ぎではうたた寝してしまうという可愛らしい一面も！(技術局長前々任よりタレコミ)(いや～引継ぎで寝るなんてマジで度胸すげ～私にはできないわ～(筆者の心の声))

そんなにょっき先輩だが、バリキャリ(バリバリキャリアウーマンの略)として技術局をまとめあげるにょき！また、LINE の返信はどんだけ電波が悪かろうと 5G のスピードで返信してくださるしごデキ(仕事できる♡)にょき。また、奏者としてはバストローンボーンをバリバリ鳴らしてくださるにょき。今日の演奏をお楽しみに！それでは最後に、にょきにょきにょきにょきにょっきにょきー！

(筆:米田玲緒)

✻ 事 務 局 ✻

✻ 技 術 局 ✻

パート紹介

Violin

こんにちは！
一時期、高齢化&少子化(？)が進み、限界集落だったバイオリンパートでしたが、1年生を6人もお迎えし、華やかパートへと返り咲きました！我々 上級生の奏でる、力強くもあり繊細な音色に惹かれたのでしょう。きっとそうです。そうだよね？？というハラスメントは置いておいて、、。練習の休み時間のたびに教えあったり、楽しくキャッキャと話したりしている様子を、聖母のような優しさで包み込んでいますよ😊

そんな微笑ましい仲良しパートである私たちが奏でる、明るく優雅なメロディーをどうぞお楽しみください！

Viola

こんにちは〜ヴィオラパートです！
ヴィオラパートは、各学年2名ずつとバランスが良く、家族みたいなパートです♪　大学からヴィオラを始めた人が9割を占めているパートなので、日々助け合って頑張っています！
さて、今回のメインであるシベリウス交響曲第2番では、「縁の下の力持ち」という役割を全楽章で全うしております！
例えば第4楽章には、音階のような動きの伴奏が約百小節ほどあるのですが、9割以上は担当しております✨
このような、影で大・大・大活躍しているヴィオラに少しでも耳を傾けていただけると幸いです！
どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください！

Violincello

こんにちは✋
ほんわかゆるふわチェロパートです！(嘘です)
前回の演奏会のメインでは、女子が1人とかなり男臭かったですが、今回は4年生の先輩と1年生が加わっているということで、柔らかな甘い香りが会場に行き渡っていることでしょうw
″記念″定期演奏会ということで、ふざけずにいきたいと思います。
今回のメインはシベリウス/交響曲第2番ですね。自分達で決めた曲ではありますが、難易度が高く、今まで以上にチェロが目立ってしまうというプレッシャーに押し潰されている(私だけかもしれません)ので、温かい目でみてくださいね！絶対ですよ👀

Contrabass

みなさま、お久しぶりです。
シン・ゴリラをやらせてもらってるコントラバスパートです。
なんと！野に放っていた一頭のゴリラが戻ってきたのでフル戦力となりました。
話は変わりますが、今回は記念定期演奏会ということで、メインで演奏するシベリウス交響曲第2番は4名の現役団員に偉大なるOBの4名の方々を加えた合計8人で演奏させていただきます！
コントラバスパートの『存在感』『安定感』を会場にいる皆様に届けられるよう演奏いたします。
どうぞ刮目あれ！

パート紹介

Flute

みなさんこんにちは！今年も「清く正しく美しく」清楚系パートをかろうじて引き継いでおりますフルートパートです！
前プロのトップは期待の1年生井上くんです！冬でも半袖Tシャツでフルートを構える姿とチャーミングな笑顔はまるで木管の貴公子です！そしてフルートパートの頭脳、4年生千夏ちゃんはその知性と美しさで皆んなを魅了しています！中プロトップの彼女の音色にご注目ください！最後にメイントップは元祖清楚系4年生まみちゃん！彼女の奏でるキラキラした華やかなメロディをお楽しみください！
そしてまだまだ団員募集中ですので興味がある方は是非見学に来てくださいね♪

Oboe

こんにちは！いつも小さめオーボエパートです！
写真のポーズから溢れ出ているように、個性強めオーボエ愛強めで活動しています⭐
本日は記念定期演奏会にお越しいただきありがとうございます！
オーボエは認知度が低くて、何の楽器をしてるか聞かれた時に「クラリネットに似てるやつ！」と答えていますが、今回の演奏でオーボエを覚えていただけるように頑張ります！！
そんなオーボエの奥深い、温かい音は今回全ての曲で活躍しているのでお聴き逃しなく！

Clarinet

みなさん、こんにちは！
4年生のゆうか先輩が復団され、クールビューティを取り戻したクラリネットパートです♪
1年生すーのかわいさにやられ、4年生ゆうか先輩のクールさに惚れ惚れしている筆者は、両方を兼ね備えようと奮闘しております(笑)
さてさて、前プロからメインまで、かなり大変な曲となっておりますが、今回の定期演奏会は記念すべき第110回ということで、クラリネットパートとしても気合いが入っております💪
今回は、3人が1曲ずつトップを努めます😳前プロ冒頭のオーボエとクラリネットの掛け合い、中プロ1楽章のソロ、メイン1楽章のソロにもご注目ください👀

Fagotto

こんにちは！ファゴットパートです。
夏の定演はパート員が私1人でめそめそしていましたが、冬は復団された先輩も加わり、さらにパワーアップして元気100倍です！（笑）
今回は3曲ともファゴット大活躍です！ここでは推しポイント全てを語りきれないので、みなさんぜひファゴットの音にも注目してお聴きください！
寒い日々が続きますが、ファゴットの豊かで優しい音色で、ほっこり温まっていってください♪

パート紹介

Horn

こんにちは！ホルンパートです♪
ピン子先輩、チャーリー、マルクス、ハイジ、グリという個性的なあだ名の5人で、気難しい楽器に翻弄されつつ音色を追求する毎日です。後期は休団していた2人が復団し、前期よりさらにパワーアップしました！5人で温かく、優しく、時には勇ましく、素敵な音色をお届けすることを約束します。
また、近年鹿大オケは人数不足に悩まされていますが、ホルンパートは常に新入生獲得戦争に勝利し、ついには管楽器1大所帯パートになりました。平均身長は少し低めですが、人数とオーラでカバーしつつ、これからも鹿大オケを侵略していくことでしょう。
舞台向かって左端、輝くホルンにご注目あれ！！

Trumpet

個性あふれるトランペットパートをご紹介します！
まずは4年生のまちこ先輩こと岡村いつき先輩です！可愛らしい見た目と、両耳のピアスのギャップが素敵な先輩です！次は3年生の本みゆ先輩こと本田美優先輩です！しっかり者でトランペットパートの大黒柱を担っています！現在、休団中です。最後は私、2年生の下入佐萌衣です。今回、シベリウスの2番の1stを務めます！

Trombone

こんにちは。トロンボーンパートです。
全員20歳以上と高齢化が進む中、写真から滲み出る和気あいあいとした雰囲気で日々過ごしております。オーケストラにおいて全てを持っていく美味しいパートですので、フレッシュな皆様、何卒いらしてください泣。
さて寂しいパートではございますが、なんと今回前プロの序曲、メインのシベリウス2番で大活躍いたします！特にメイン最後のハーモニーは格別です。
舞台後方右側、私たちの演奏にどうぞご注目ください。

Percussion

こんにちは！パーカッションパートです！
オーケストラのティンパニは大事なところで活躍する楽器なので、緊張しますがとてもやりがいがあります✨
現在現役団員が1人でとても寂しいです(泣)
興味のある方はいつでも見学にいらしてください！！